

ぜせんだら
「是旃陀羅」問題に関する
教区学習会

◇日時 6月3日(金) 14:00~16:30

14:00 開会

14:15 講義(90分)

15:45 休憩

16:00 質疑応答

16:30 閉会

◇場所 三重同朋会館 3階 講堂

(桑名市北寺町47 [TEL:0594-21-8000](tel:0594-21-8000))

◇講師 中山 善雄氏(教学研究所研究員)

『真宗』2021年11月号「教研だより」ならびに

『真宗』2022年1月号、2月号「解放の共学」(「是旃陀羅」問題に聞く)執筆。

◇参加費 無料

※ 自宅からWEB(ZOOM)でも参加できます。

※ 新型コロナウイルス感染症対策の為、参加者名簿を作成します。

参加を希望される方は、開催日の前日までに「三重教区・桑名別院ホームページ：<https://mie-betsuin.com/>」から、お申し込みください。感染状況により、日程変更や中止の場合があります。



申し込みはこちらから

問合せ 真宗大谷派 三重教務所 ☎0594-21-8000

主催 三重教学研究室

「是旃陀羅」問題に関する教区学習会開催にあたって

三重教学研究室長 藤嶽明信

浄土三部経の一つである『観無量寿経』は、親鸞聖人が正依の經典であり「大聖の自説」と位置づけた大事な聖教であります。特に、『観無量寿経』序分は、『現代の聖典』として同朋会運動のテキストとして公開されているものであり、教区においても「教区壮年特別伝道」のテキストとして活用している現状があります。その序分の「禁母縁」に、

王いまこの殺逆の事をなさば、刹利種を汚してん。臣聞くに忍びず。これ旃陀羅なり。宜しく此に住すべからず。

という一文があります。ここに「是旃陀羅」という言葉があります。

この「旃陀羅」の言葉は、インドにおいていつ頃成立したかについては明確な資料はありません。しかし、『観無量寿経』がインド・中国・日本と伝承される中で差別を助長し、人間崩壊をもたらすような歴史を生み出してきました。しかも、その内容は一貫して人間が人間の尊厳を否定する差別語として機能しているのです。それは、単に古代インドの社会制度の中に位置づけられた身分という意味だけでなく、中国・日本においても同じような意味を持って使用され、排除を生み出してきました。

特に、「旃陀羅」を「穢多・非人」と重ね合わせて排除や差別を助長してきたという、私たち宗門の教学・教化の歴史があります。そして、それは決して過去のことではなく、今なおその言葉によって傷つけられる人々がいるのです。しかし、私たちはそのことに関心を寄せることなく、そこに問題があることにも気付かずに見過ごしてきました。

この「是旃陀羅」問題については、この問題が指摘されて以来、宗門挙げて取り組みがなされているとともに、すでに教区においても「差別と人権を考える協議会」が中心となって学習会が開催されました。

この問題に私たち一人ひとりが自身の問題として向き合っていくことが大事な課題として掲げられてきました。そうであるにもかかわらず、自分自身の問題として取り組んでいくことが、なかなか実質を伴わないという現実があるのではないのでしょうか。

今回の学習会の講師である中山善雄氏は、「私たちの日常が排除によって成立していることの自覚が難しい」（『真宗』2022年1月号）と指摘しておられます。そして「『是旃陀羅』の言葉は、私たちの日常がそのような排除を生み出していることを表しているのではないか」と述べておられます。

この指摘にあるように、排除や差別とは過去の問題なのではなく、私たちの現在の問題なのであり、なおかつ自覚することが困難な問題としてあるのではないのでしょうか。このような私たちの自身の問題を直視する、そこから始めなくてはならない「是旃陀羅」問題の学びがあるように思われます。

このような問題を私たち自身の問題として学ぶ学びの始まりとなることを願って今回の学習会を開催いたします。公私ともに、ご多用の事とは存じますが、是非ご参加くださいますよう、ご案内申しあげます。